



## 呼吸器内科の紹介

呼吸器内科 鈴木基<sup>もとい</sup> / 石田正之<sup>まさ ゆき</sup>



鈴木基 Dr

石田正之 Dr

はじめまして。7月1日より当院に着任しました、呼吸器内科の鈴木基と石田正之です。わたしたちは近森病院で仕事がしたくて、はるばる長崎から高知にやってきました。これまで呼吸器の病気は、呼吸器外科部長の山本彰先生が一手にひきうけていらっしゃったとのこと。その負担をすこしでも軽くすべく、呼吸器内科をはじめさせていただきます。

あらためて呼吸器内科の仕事について紹介します。当科の対象となる病気は、呼吸器感染症、肺癌、慢性閉塞性肺疾患（肺気腫）、びまん性肺疾患（間質性肺炎など）および、それともなう呼吸不全です。

もちろん内科の一員として外来、救急、病棟診療を行います。それ以外の業務としては、気管支鏡検査、CTガイド下肺生検、呼吸生理検査などが

あります。感染症については検体を速やかにグラム染色することで、適切な抗生物質選択をしていきます。

人工呼吸器管理については、従来の気管挿管による呼吸管理はもちろん、非侵襲的陽圧換気装置（マスク型の人工呼吸器、通称BiPAP）を取り入れ、ARDSなど急性期から慢性呼吸不全まで、厳密な呼吸管理に取り組んでいきます。

肺癌については、呼吸器外科と密接に連携をとりながら、診断から治療まですすめていきます。また、慢性呼吸

不全患者さんの包括的ケアや、睡眠ポリグラフィ検査の導入による睡眠時無呼吸症候群の診療をはじめのつもりです。

やりたいことばかり書きましたが、わたしたちだけでできるはずがありません。みなさんと一緒に、1年、2年かけて、すこしずつ進めていけたらと思っています。わからないことがあれば、いつでも声をかけてください。一緒に勉強していきましょう。

### ● 8月の歳時記 ●

6階東病棟看護師 横山 智恵子



百合

写真は土佐山のタキユリ

さわやかな風に咲く百合。まるで「私はここにいるよ」とささやいているかのように。世界の熱帯から寒帯、高山に至るまで分布している花。花言葉は「純潔」。

なんとも清楚で可憐な姿の百合。この花は今いる場所で断じて勝利ある！との決心を忘れまい、あらゆる行き詰まりを打開する、カギはいつも自分が握っているのだからと教えてくれている花のように私は思う。

「亀田メディカルセンター」という日本で民間の雄ともいえる病院がある。房総半島の外房に面した千葉県鴨川にあり、3万7千人の田舎町だが、東京、横浜の都市部を控えていて、車で2時間足らずの距離にある。

この4月に急性期病棟「K-Tower」が完成し、VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) の総会を兼ねて、その壮大な医療施設を見学させてもらった。理事長がまずやったことは、アメリカの企業に依頼して、現在に至る病院のマスタープランをつくってもらったことである。

続いて、人材を育成するための看護学校をつくり、病院独自の臨床研修医制度をつくった。病院が成り立つための人づくりを、まず最初にはじめたことに涙みを感じた。

ついで立体駐車場をつくり、その後外来センターをつくり外来を分離した。外来と入院を分離することで、カルテ上の問題が起こるが、それを解決

するために多額の投資を行なって電子カルテをいち早く構築した。入院部門では電気設備や物流を担う立派な施設棟を建設し、最後に今回建設されたK-Towerをつくっている。ふつうなら収益部門である外来センターや病棟を一番につくるのだろうが「亀田」はそこが違っていた。

### K-Tower

近森 正幸



K-Towerの患者さま情報プラザ「ラウンジ」

K-Towerは全館個室のオーシャンビューで、各フロアに8床のICU、HCU、30床の個室がある。最上階にはレストランがあり、和食、洋食、鉄板焼き、と揃っていて、患者さんはいつでも上に乗ってきて、食事はもちろんお酒も飲める。まさにホテルのなかで医療をしている感がある。

「亀田」のことを思うと、都会から遠く離れた地方の民間病院の憂いがあることも確かだ。「東海の一隅に生れたら天下を取れたかも知れない」と嘆いた長曾我部元親の悲哀を、つくづくと思い起こす。

理事長・ちかもり まさゆき

# DPC 調査協力スタート

診療支援部部长 寺田 文彦



今年7月より、昨年同様に厚生労働省へ提出するDPC（診断群分類による1日包括支払い制度）のデータ提出のための調査協力が始まりました。レセプト電算処理などの普及で、一つの疾患に対して全国同じコードを利用することで、疾患別の患者評価を行なうことができ、大学病院、公立病院、民間病院別に患者層の違いも議論されるようになりました。

DPC実施病院82、試行的適用病院62、調査協力病院51 合計195病院の昨年4カ月間の退院患者59万件を厚生労働省が分析した結果によれば、近森病院の患者さん像は、予定外の緊急入院が7割を占め、高齢のため入院時に併存疾患をお持ちの方が多く、主な疾患治療の他に、多臓器不全などで入院中に透析治療などを行う患者さんの比率も高く存在しています。

循環器疾患での心臓カテーテル検査や人工心臓を使った心臓手術などが多く、意識障害などで緊急検査を集中して行い、的確な診断のもと迅速な手術や処置を行います。その後は急性期リハビリやNST（栄養サポートチーム）の介入により早期退院に向けてのチーム医療が行われていました。

病診連携を密にして、早期転院される患者さんが4人に1人の割合で存

在するのも、地域医療支援病院の特徴といえます。

疾患ごとの治療成績や専門医が公表されて、患者さんに選ばれる時代となりました。昨今、地域中核病院を中心として、疾患別の病床区分を決める案が、取り沙汰されておりますが、患者さんによるフリーアクセスができる制度下での病院淘汰が、理想と思われま

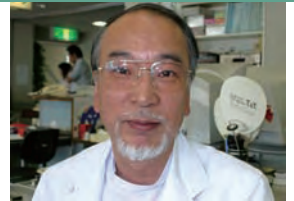
す。今後は、救急搬入や看護の必要度など、新しい観点からの調査も検討され、本当の意味で、「人材あるところに診療報酬あり」、が確立されることを望みます。

てらだ ふみひこ

## ドクターアイ

### 老脳愚考

リハビリテーション科 佐々木 司



近頃目に付くこと。脚長く、小頭、小顔の若者達。八頭身も珍しくない。数十年前の日本人は五、六頭身。短足、胴長で頭も大きかった。ネアンデルタール人とホモ・サピエンスくらの違いがある。（出土した化石を前に、数万年後の考古学者達は大きい悩むに違いない）。

肉食、行儀の悪さが短胴、長脚を生み、軟食が小頭、小顔の原因である。よく噛んで食べると頭が良くなるというが、間違いである。頭は大きくなるかもしれないが中身は変わらない。

数万年前の人類と現代人の「脳」は同じだ。人類の生物学的進化はそんなに速くはないし、獲得形質は遺伝しない。ただ過去の天才達の「脳が考え出した技術」だけが積み上げられ、過去とは比べようも無い高度

な科学を築き上げた。（ヒポクラテスより進んだ医学知識を持つといえども現代の医学生達の「脳」が彼より優れているとは誰も思わないだろう）。

私が医学生であった頃、学んだ病気は今より遥かに少なかった。これは私が講義をサボったこととは関係なく、医学の進歩で明らかになっただけでなく、新たな病気が増えていると思えてならない。進化し過ぎた「脳の産物」、即ち人工物に囲まれた現在の環境に進化の遅い生物学的身体は適応できるはずも無い。これが新たな病気を生み出した原因である。これを克服するのも「脳」の勤めであるし、小頭であれど過去の天才たちと同じ「脳」を持つ若者達の仕事に違いない。

ささき つかさ

## 聴診器

### 不惑

消化器内科科長 岡田 光生



初老というのは40歳からだそうである。自分もとうとうそんな歳になってしまった。最近は酒を飲んでも以前では考えられないほどの少ない量で二日酔いになることがある。「午前様」という言葉が実感できるようになった。やっぱり30歳とは全然違うと感ずる。

先日、90歳の御達者な女性が入院し担当する機会があったが、「先生はいくつ？」と聞かれ、40歳になると答えると「若いね。まだ青春や

ね」と言われてしまった。普段、元気がない患者さんを励ます役回りが多いが、このときばかりは反対に勇気づけられた。

孔子の教で「四十にして惑わず」から40歳を不惑と呼ぶ習いだが、自分と照らし合わせてみると全然実感がわかない。

30代は仕事やら社会やらを覚えるのに精一杯で惑う暇がなかったようにおもうが、最近は公私ともに惑うことが多くなってきており、「四十

にして惑わず」とはかけ離れた状況である。

ともあれ40歳という歳は仕事においても、人生においてもちょうど折り返し地点で、不惑の境地に達するかどうかは別にしても、自分を見つめなおすいい機会だとおもう。

おかだ みつお



# 外来の機能分化を実践して

近森病院外来統括看護師長

久保田 聡美



5月の大型連休も返上で、連日引越し作業に追われてスタートした外来新体制も3カ月になろうとしています。5月連休明けの平均患者数は、前後の週と比較しても連日100名増しの状況で、当時は大混乱となり、皆様にもご迷惑をおかけしました。患者さま、ご家族、そして職員の皆様のご理解とご協力の下、新体制も徐々に定着しようとしています。

『ひろっぱ』の4月号で、院長からお知らせしましたように、外来の新体制のいちばんの目的は、地域の医療機関からの紹介状をお持ちの患者さまを大切にしつつ、救急医療の充実もはかるための外来機能分化でした。

しかし、一口に機能分化といっても、外来にはいろいろな方が来られます。予約を間違えて来られた方、病状に変化のある方、近くの診療所で近森病院受診を薦められたものの紹介状をお持ちでない患者さま。そうした方々ひとり一人にとって、いちばんよいのは、専門外来か一般外来か、それとも救急外来かと、受付と各科外来の看護師が連携をとりながら日々対応しています。とくに専門外来受診を希望される患者さまが多いために、まだまだ待ち時間は長く、ご迷惑をおかけしているとは思いますが、8月から内視鏡センターもオープンし、少しずつよりよい医療サービスを提供するために努力

しています。しばらくお待ちください。

また、私は、入り口近くの看護相談室におります(保健師、産業カウンセラーの資格ももっています)ので、相談等ありましたら、お気軽にお立ち寄り下さい。 くぼた さとみ

2005

## 第3回公開県民講座

日 ● 9月17日(土)

時 ● 14:00～16:00

会場 ● 高知市文化プラザ

「かるぽーと」大ホール

講演

「脳梗塞一病気の理解と予防」

近森病院神経内科部長 山崎 正博

「くも膜下出血」

近森病院脳神経外科部長 高橋 潔

「脳卒中のリハビリ」

在宅総合ケアセンター近森

センター長 宮本 寛

●入場無料

### 院外エッセイ

## まずまずの 元気でいます。

吉永 小糸

よしなが こいと

市民学校運営委員長、潮江市民図書館

を育てる会会長、潮江婦人学級級長。

明治41年10月8日須崎市生まれ。



26年つとめた図書館長をやっと替わっていただけた機会に同窓六名が話し合いの昼食会をもってくれました。80歳から96歳のおばあちゃん達ですが、どの方も一病息災の方でした。体育の先生だった方は三回も大手術をなされながら相変わらずお元気でした。お医者さんと仲良くしておられるそうです。

私も皆さんから健康の秘訣みたいなものを問われますので、自分なりに考えてみました。

①退院後、いろいろなボランティアの仕事にかかわってきて、未だ続いていること。

②図書館へ歩いて通ったこと。約30分。

③家に畠のあること。

④家まわりに四季折々の果樹のあることはありがたいことです。これはさきに逝った主人が、野中兼山の、

「屋敷まわりに、なりもの、を植えよ」の教えによったものです。

文旦、レモン、柚子、枇杷、梅、柿、サクランボ、スモモ、キューイ。一つだけ失敗、ヤマモモは雄木でした。

畠は主人と私でやっていたが、現在はご近所の方二人、次男夫婦の四人で作っています。農事試験場ほど多種類で、かわいらしい西瓜もころがっていますし、南瓜も十数個もみえています。

私はもっぱら除草、水やり、堆肥づくりです。ときには、朝、玄関を開けると、とりだちの茄子、キュウリ、ピーマンなどおいて下さっています。ふだんは自由におもらしています。自作のものは味がちがいます。

⑤ボケなかったこと。

・本が読めること。

・毎月の関係文書づくりをしてきたことがボケ防止になったことに気づき、感謝しています。

毎日の生活リズムを大切に、今日も生かさせてもらっています。

2005

## 第12回

## クリニックルパス大会

日 ● 9月10日(土)

時 ● 9:00～12:00

会場 ● コンフォートホテル高知駅前  
内容

「糖尿病教育入院のパス」

●入場無料

## パイナップルチームの 口腔ケア

看護部長 梶原 和歌



最近、近森病院の病棟では午後2時頃になると、黄色いエプロンをつけた看護師が3、4名、ベッドサイドで患者さんの口腔ケアをおこなっている姿を見かけるようになりました。「パイナップルチーム」と自称しているこのチームは、なんとかして病気が良くなり再び口から美味しく食べられるようになっていただくために、「口から食べる準備期を、きちんと口腔ケアを実施する看護を定着せよう」と張り切っているチームです。

ケア実施前と実施後は写真左と右をご覧くださいとされれば分かります。ア

プローチは

- ① 意識障害など重篤な患者さんに「お口をきれいにしましょうね」と声かけして
- ② 顔面・口腔の軽いストレッチ
- ③ 歯磨き粉を使用して歯ブラシで歯や舌のブラッシング洗浄
- ④ うがい施行（吸引しながらの場合が

口腔ケア前



口腔ケア後



多い)

- ⑤ パイナップル果肉アイス棒でマッサージ洗浄
- ⑥ 水ガーゼでふきとり
- ⑦ 次会から同僚ナースに施行してほしいコメントを残すといった手順でラウンドしていました。

身体状況の観察、注射や検査と忙しい中で、栄養サポートチームや口のリハビリチームが実際に活動ができるようになるためにはより効率的な手順を実際に水先案内人となって落とし込んでいくことが現場をサポートし励ましていくことになっています。

ちなみにこのチームメンバーは本院口のリハビリテーション運営委員看護師長、総看護師長、感染対策看護師長、教育および業務担当看護師長らがそれぞれの仕事の合間を縫って活動していました。

かじはら わか

### シリーズその4

### 食べて飲んで、私の健康法

## 徒歩通勤

医療福祉部第二分院相談室  
川上 めぐみ



私の周りでは、いつも「ダイエット」の話題で賑わっています。そして、私はテレビで時々聞かれる「モムちゃん」（最高の肉体）に憧れています。ただ痩せているのではなく、適度に筋肉のついた美しい身体が理想だと思います。今の私はまだまだ脂肪に厚く覆われていますが……。

私は、決して痩せていた訳ではありませんが、昔からダイエットや、体型を気にしたことはありませんでした。しかし、ふと気付くと体重計には見たことのない数字がうつり、久々に会う友人に「お母さんって感じやね」と言われる始末。ご飯大好き、運動嫌い、面倒くさがりな私が楽に痩せられる方法は無いものかと考えました。

思いついたのは、通勤を徒歩に変えるというものでした。距離にして3km。時間も初めは50分ちかくかかっていましたが、今は約40分です。後は、大好きだった夕食のご飯をお茶碗半分に減らしました。これを半年くらい続け、約9kg減量しました。体重が減って行くと気分が楽しくなりますよ。その後は、ジムやプールに通っていましたが、長続きはせず、

結局歩くことだけは続けています。

前は毎日歩かなければと思っていましたが、今は少し自分に休みをあげられるようになりました。しかし、歩かない日が続くと、何か心地悪い気分になるのですが。

歩くときは、自分の好きな曲を聴きながら、時に歌ったり踊ったりしながら歩いています。また、朝は「仕事に向かう」という気合いをいれながら、帰りは1日にあったことを思い出し、整理をして家に持ち帰らないよう気分転換の時間にしています。私は元々怒りっぽいですが、歩くことで少し怒りを足にぶつけられるので、少しマシなような気がします。

最近では、体脂肪率を落としたいため腹筋やストレッチをして筋力アップを目指しています。どなたか良い体脂肪の落とし方をご存知の方、教えてください。

好きな事を我慢してストレスを溜めるより、ストレス発散できれば、よいダイエットにも健康に繋がるのではないのでしょうか。

かわかみ めぐみ

### わたしのこの一枚

## 「我が家の癒し系」

いごっばち介護福祉士 近藤 美緒



今年で九才を迎える愛猫の「穂高さん」です。猫というと、気まぐれでクールなイメージがあると思いますが、穂高さんはうっとおしくらいの甘えたさんです。

彼の定位置は、誰かの膝の上や肩の上。目が合うと、お腹を見せて「なでて」とゴロゴロのどを鳴らします。甘えていないのは、食事とトイレの時くらいのものでした。

そんな姿で心を和ませ、ぬいぐるみのような柔らかな肌ざわりで心を和ませる。どんなリラクゼーションにも勝てない、とっておきの癒し系です。

こんどう みお



## 在宅総合ケアセンター近森の職員が ボランティアに参加しました。



●7月23日の土曜日に、江の口小学校グラウンドで、江の口第3回夏祭りが開かれ、「在宅総合ケアセンター近森」の職員がボランティアで参加しました。右の写真は在総の大原隆志ソーシャルワーカー



2005

## 第28回地域医療講演会

演題 **DPCによる医療の質の評価と  
これからの展望**

講師 **松田 晋哉 先生**  
産業医科大学公衆衛生学教室教授

日 **8月8日(月)**  
時 **18:00～**

会場 **ホテルサンルート高知**

## メンタルクリニックちかもり 喫茶コーナー 和(なごみ)



名前はお客さまに和んでいただけるようにということから。

お客さまが喫茶店の雰囲気味わえるよう、ホールを工夫しています。毎週水曜日14:00からで、こだわりのコーヒーや手作りのお菓子を召し上がってください。 援護寮まち 前口由紀

## 続・管理部長のカンタンこだわり料理(13)

川添 昇

### トマトとアサリの 冷製スパ・カッペリーニ

巨人のナベツネではないが、半年も経たないうちに懲りずにまた出てきてしまった。前回の連載終了後、ごく少数の人から「良かったのに、また始めて下さい」とのうれしい声に、ウム、これは氷山の一角。海面下のサイレントマジョリティの方々の存在を(勝手に)信じて、スタートさせていただく。誌面の埋合わせの時だけの随時掲載の予定。

2007年問題(団塊の世代が60才になる)を控え男の料理教室が最近はやっている。 트렌ディーを自称する私にとって嬉しい事ではあるが、エプロン姿のオジサンはどうもサマにならない。

ところで、去年の夏、九州の知人から「トマトの冷製スパ・カッペリーニを常温の赤(ワイン)で楽しんでいます」との粹なお便りをいただいたが、それに見習って今回は「トマトとアサリの冷製スパ・カッペリーニ」に挑戦してみた。

ずいぶん以前のことだが、ある商社マンに「トルコからスペインに至る地中海沿岸諸国では味の素が全く売れない。その理由はトマトにあった」といわれた。ウマ味の成分が同じというこ

とらしい。トマト好きの私としては大にうなずける次第。

- 材料(2人分)1スパゲティー・カッペリーニ(細麺)150g ぐらい
- 2アサリ 1~2袋
- 3白ワインまたは日本酒適量
- 4熟したトマト 中くらい1個
- 5ニンニク 1片
- 6オリーブオイル 大さじ2
- 7パーズンオリーブオイル 少々
- 8パセリ 適量

#### ●作り方

①2を適量の水と3を入れて加熱しアサリのムキ身を取り出した後さましておく。

②フライパンに5と6を投入し(お好



絵・メンタルクリニックちかもり 作業療法士 大杉英子

みで唐辛子も)、きつね色になったらザク切りにした4とアサリのゆで汁を適量を投入、ソース状になるまで煮詰め冷蔵庫で冷やす。この時アサリも入れておく。

③1を多めの熱湯に塩を入れカタメにゆで上げ氷水でしっかりもみ洗いする  
④冷えたアサリ入りトマトソースとカッペリーニを混ぜ合わせ、塩コショウで味を整えガラスの平皿に盛る。  
⑤6をたらし、8のみじん切りをトッピングする。

一緒に飲む「常温の赤」ももちろんいいが、少しはりこんでシャンパンの「ヴーヴクリコ」あたりだと夏の昼下りにピッタリくること間違いなし。

という訳でこだわり料理というより、酒の「アテ」シリーズになりそうである。

## 米国出張記

# 感染管理の最新事情： APIC2005 参加と病院見学



APICの会場

我々の希望を快く受けていただき、1日かけて立派なAgendaを作成し、そのとおりに見学

させていただきました。

全体を通した印象は、スタッフ全員によって気持ちよいチーム医療が展開されているというのが実感でした。感染管理に関しては学ぶ

べき点が多かったのですが、当院ほどではありませんが、整備すべき課題も見受けられ、終了後の会食で当院のサーベイをしていただいたICPのDashさんも素直に認めておられました。

全職員への種々の守るべき事項の徹底が非常に困難であることはもうひとつの見学病院であったJohn's Hopkins 病院のICPも痛感しており、病院施設の老朽化による未整備な部分による制約や全職員・特に医師による協力の程度も日本と同様、課題の一つのようでした。

このツアーでは非常に多くの良い刺激を受け、またツアー参加者との暖かい交流もでき、今後の近森会の感染管理の課題克服に非常に参考になったとともに参加者の情熱も鼓舞された印象です。今後の活動に期待していただくとともにご協力をお願いします。

きたむら たつひこ

Temple 大学病院見学の皆さん

しっかりメモをとる見学の皆さん



近森病院副院長  
北村 龍彦

近森会の感染管理は感染対策委員会と全職員が協力し、常に自院の実践活動を振り返りつつより良い活動にすべく精進していますが、まだまだ改善すべき課題を痛感しています。

先日米国の感染管理専門家による外部サーベイを受けました。その後タイミングよく APIC (米国の感染対策専門家協会) の 2005 年の集会に参加する機会を得ましたので、詳細は感染対策委員会主催の報告会に譲り、ここでは簡単に概略を紹介します。

日本看護協会の感染管理認定看護師のツアー「ICN のための APIC 視察旅行」のメンバーに加えていただいたのは、近森幹子 ICN (感染管理看護師)、高塚由紀子 CMT (細菌検査技師)、松坂理佐 CP (臨床薬剤師) と私の 4 名でした。

## ● 注目すべき感染症 ●

このツアーは HAICS 研究会が企画し、いくつかの演題をあらかじめ選択され、同時通訳がつく設定であります。またこのツアーとは別に日本から多数の参加者がおられ、1日の終わりにはスリーエムヘルスケアと有志の先生方による日本語のサマリーセッションも開かれ、ここにも参加させていただくことができ、内容の把握に非常に有益でした。いろんな方々に感謝しております。

開会当日は、華やかなオープニングに続きオスターホルム博士による基調講演でスペイン風邪のようなインフルエンザの大流行 (Pandemic) の危険性と経済的な影響にも言及され、飛行機旅行が発達した現在では検疫での防御は困難であり、ワクチンや薬剤などの対策が重要と強調。

また、消費者団体からの要請で、病院などの医療機関での感染症の発生率の報告義務化が各州ごとに法律化され、数年のうちに全米で義務化される

勢いであり日本でも安全と質の評価指標のひとつとして重要な課題であります。また市中獲得の MRSA (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌) の増加とそれに対する対応や、各種サーベイランスの重要性とこれを如何に臨床の現場に活かしていくかなど、まさに日米ともに現場の専門化が問題意識を持っている内容が取り上げられ参考にすべき点が多く、日米の違いを十分吟味して取り入れるべき点は取り入れていきたいと考えています。

## ● 米国の大学病院の現状 ●

APIC2005 の参加とともに今回の米国ツアーの我々にとって重要なテーマと大きな期待として、前述の米国感染管理専門家のサーベイを受けて、彼女たちの病院 (Temple 大学病院) がどのように実践しているかを見せていただく病院見学を計画していました。

## ハッスル研修医・第3回



## 病気だけでなく、人を 診る医師になりたい

古谷 敏昭

学に来ました。そこで、活気に溢れスタッフみんな協力して質の高い医療を行っているのを目の当たりにし、「ここで研修したい!」と思うようになりました。

私の理想の医師像は病気だけでなく、人をしっかりと診ることのできる医師です。患者さんと様々な情報を共有し、お互いに理解し合い、患者さん一人一人の背景に応じたきめ細かい医療を提供できるようになりたいと思っています。

この二年間の研修期間でできるだけ多くの事を学び、知識・技術を高め、自分の理想の医師像に一歩でも近づけるよう努力していきたく思います。どうぞよろしく願いいたします。

こたに としあき

病院での臨床研修が始まり、早くも3カ月が過ぎました。忙しいですが、とても充実していて楽しく、あっという間の3カ月でした。まだまだわからないことだらけで、患者さんや先生方、スタッフの皆さんに教えて頂きながらなんとか一日一日を過ごしています。

出身は高知県春野町、趣味はテニスです。大学時代は暇を見つけてはテニスばかりやっていました。一年前のちょうどこの頃、部活動の夏の大会が終わり、春からの研修病院をどこにしようかと、とても悩んでいました。そのとき、気楽な気持ちで近森病院の見



# いまが子育ての旬のとき、 いましかできないことを いつも娘と

仕事も充実しているし、娘も大らかで遅しすぎるほど(笑)順調に成長してくれている。夫は仕事が忙しく留守がちでもとっても元気。こういう毎日をたいへんありがたく思う。長女の捺姫ちゃん出産後、手術室に異動になった。「周りのスタッフにはホントによくしてもらって、保育所のお迎えにもまず行ける。時間も気にしてもらえている」と、これが現在の充実生活のベースになる部分だという。「子どもが小さいから」と、状況にただ甘えるのではなく、<sup>き</sup>が兼ねし感謝もし、だから周りともきつとうまくいくのだろう。

いま、なにを大事にしなければならぬかとプライベート面を考えると、やはりいちばんは子どもといかに接するかということになるそうで、「二度と繰り返せない毎日に取り組んでいる」という覚悟のようなものが何となく伝わってくる。子どもがいくつであろうと、二度と繰り返せない毎日であることにはかわりはないのだが、やはり「きのうとは全然違うきょうの成長ぶり」に目を見張るような変化が感じられると、それだけで楽しいのだ。

ごく自然に「娘のペースをいちばんに考えてしまっている」。お母さんの家での用事を真似したくてたまらないらしく、お人形さんごっこではいつも捺姫ちゃんがお母さんの役回りになっている。料理もできるだけいっしょに作る。ひとりでやった方がずっと手ばやくできるけれど、手間でも娘とやるという行為自体に意義を見だしている。日常ではこういうことが多い。こうしているのがいまいちばん落ち着く。だから子どもがひとりで、夫が留守がちでも案外自由な時間はたっぷり！というわけにはいかないそうだ。

こんな風にいま成すべきことをがんばる峰子さんの「峰子」という名前の由来。小学生のときの宿題の名前調べで父親を確認すると、「人の上に立つ人になって欲しいと願って」と、もっともらしく教えられたそうだが、じつは転勤で親が長野県にいるときお腹にできたことから「峰の美しい長野県にいたことを記念して」つけられた。因みに、捺姫ちゃんの場合は「なつき」の音は夫が、漢字は夫妻で「一生懸命考えて」画数を合わせて命名した。



手術室という常に緊張感と隣り合わせの空間で、仕事に集中しているうちにあっという間に一日が終わってしまうという毎日。患者さんの元気にられる姿を見られるのは喜びだし、この頃では手術室勤務が自分の性格に合っ



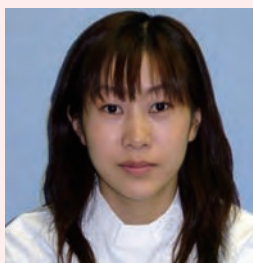
7月10日で6歳になった。卵割りは「得意なお手伝い芸」のひとつという捺姫ちゃん

ているように思えるから幸せだ。黑白がはっきりするのが、さっぱりとニヒルに見られるご本人のイメージと合うのかも知れない。

じつは「かなり神経質で細かいことが気にかかるタイプ」だという自覚があるが、堂々としてモノに動じないしっかり者に見られるのは、若いスタッフの多いなかで、十年選手という年齢のことだけではないようだ。

## リレーエッセイ

### わたしの夏



リハ病院作業療法科 横島 亜紀

でチームワークの見せ所。みんなで息を吹きかけたりウチワで扇いだりしながら、やっと火をつけることができました。ジュージューというお肉や野菜の焼ける音にお腹をすかせながら、先輩や後輩と仕事のことや私生活のこと

を語るのには本当に楽しいものです。いざ、お肉が焼けると...ここは先輩・後輩関係なし!!お肉の取り合いで、あっという間に鉄板の上からお肉の姿は無くなっていました。もちろんキャベツやとうもろこし・ナスにピーマンも絶品でした。自然の中で食べるご飯は本当においしかったです。バーベキューが終わると、花火にスイカ割りとお昼に楽しいアフターファイブでした。

今年の夏は、他にも、ダイビングやキャンプ、バレーボール大会、潮干狩りなどなど挑戦したいことが沢山あります。冷房の効いた幸せな室内から飛び出すのは、少しとまどいますが今年、自分からどどん外に飛び出していきたいと思います。みなさんも、ぜひ、高知の夏を満喫してくださいね!

よこばたけ あき

私が近森会に入社して、二度目の夏がやってきました。去年の夏は、よさこい祭りに向けて先輩や同期の友達と汗を流していました。それで去年は本当に楽しい夏を過ごすことができました。今年とは言う、ハードなよさこい祭りを断念し(少し体力がなくなっただけかな) 沢山のアウトドアに挑戦したい!と思っています。高知の魅力と言えば、なんと言っても大自然!!高知県には海あり山あり、人情あり!!ですよ(笑)。

先日は、早速、仁淀川でバーベキューをしてきました。六月の仁淀川は、まだ少し冷たく泳ぐことはできませんでしたが、川に足を入れるだけでも充分気持ちよかったです。さて、肝心のバーベキューはというと、なかなか炭に火がつかず苦労をしましたが、ここ

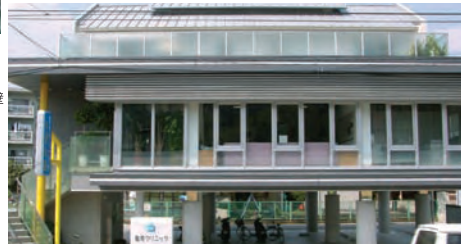
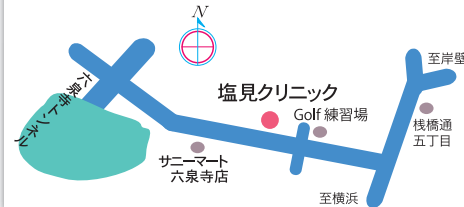
シリーズ●クリニック探訪 8

塩見クリニック tel.088-805-0002 fax.805-0003



◀院長・塩見精朗。S35年10月2日高知市出身。趣味は映画鑑賞

診療科目 ● 内科、胃腸科、外科、肛門科、小児科（塩見遼一）、リハビリテーション科  
 住 所 ● 高知市六泉寺町 87-5  
 診療時間 ● 午前 9:00～12:30  
 午後 14:00～18:30  
 土曜は 15時まで  
 休診日 ● 日曜、祝日



専門は消化器ですが、お子さんから老年寄りまで幅広く、どんな病気にも対応するようにしています。病院との連携を欠かすことなく、精密検査や入院治療など、タイミングを逃さず、紹介もさせていただくように心がけています。

◀電停の終点・棧橋通り五丁目で電車を降りて、ブリコ南店の南を西へトコトコ歩いて10分強

ニューフェイス ①所属 ②出身地 ③最終出身校 ④家族や趣味のこと、自己アピールなど

ひらかた えいいち

①整形外科医師②兵庫県神戸市③滋賀医科大学④来たからには整形外科に燃えるつもりです。今、はまっていることは、八カ月になる娘を如何に笑わせるかということです。



平方 栄一

すずき もとい

①呼吸器内科医師②広島市③東北大学④全国を転々としてきましたが四国は初めてです。8月に妻が出産予定でもあり、新しい生活を楽しみにしています。



鈴木 基

いしだ まさゆき

①呼吸器内科医師②神奈川県茅ヶ崎市③東海大学④ツーリング（今はバイク持ってないけど）とお馬鑑賞（時にお小遣いなどももらい……）が趣味です。「黄金旅程」が、わかる方、友達になりましょう。



石田 正之

図書室便り

(6月受入分)

- ・ エキスパートの人工膝関節置換術一難渋症例の攻略法 - / 勝呂徹 (編集)
- ・ 感染症診療のコツと落とし穴 / 斎藤厚 (編集)
- ・ 一疾患・医薬品から引ける一適応外使用論文検索ガイド第1集 / 藤原豊博
- ・ 山本和儀の地域リハ市民が主役の大東市の実践 / 山本和儀
- ・ ナーシングQ&A 第6号ここまで知っておきたいくすりとナーシングQ&A / 西崎純 (他編集)
- ・ こうしたら病院はよくなった! / 武弘道
- ・ 病院のDQN看護管理で病院がよみがえる / 小山秀夫
- ・ DPC テキスト基礎から病院への導入まで - / 高橋泰
- ・ クリティカルパスの新たな展開 / 宮崎久義
- ・ 医療の質安全保証を実現する患者状態適応型パス事例集 2005年版 / 飯塚悦功 (他監修)
- ・ カロリー別お魚 cooking おいしく食べて健康に / 宗像伸子

《別冊・増刊号》

- ・ 別冊医学のあゆみプロバイオティクス / 野義己 (編集)
- ・ からだの科学増刊高度先進医療 / 出月康夫 (編集)
- ・ JJN スペシャル No77 完全対応ドレーン・カテーテル管理 / 吉野肇一 (編集)
- ・ NEWMOOK 整形外科 18骨・軟部腫瘍 / 越智隆弘 (他編集)
- ・ 生涯教育シリーズ 67 わかりやすい免疫疾患 / 宮坂信之 (監修)

編集室通信

●産業カウンセラー講習に参加しています。受講生は、大学生から人生の先達までと多彩。男女・職業も様々。他県からの通学者あり、妊婦さん、ご夫妻もいてちょっとした小社会。ほとんどの休日を9~17時で密室(教室)にこもっていると、気持ち的には戦友の趣です。手弁当を囲む昼休みには、語って、聴いて、笑って。それぞれに志があり、万障繰り合わせての7カ月の挑戦。この夏は仲間と、子供のように真剣に楽しみたいと思います。(妃)

6月の診療数

近森会 外来患者数	19,636人
近森会新入院患者数	856人
近森会 退院患者数	822人
地域医療支援病院紹介率	83.13%
近森病院平均在院日数	14.48日
近森会 平均在院日数	22.23日
近森病院救急車搬入件数	430件
うち入院件数	220件
手術件数	237件
うち全身麻酔件数	111件

企画情報室